

令和7年度
(2025年度)

事業報告書

社会福祉法人こころん

社会福祉法人こころん

令和7年度事業報告

I 事業の成果

令和7年度は、物価高騰、人材不足、設備老朽化、受注変動などの外部環境の影響を受けつつも、売上増・就職者増・地域連携強化などの複数の事業で成果が見られた。特に就労事業は目標売上より伸ばすことができ、共同生活援助では高齢利用者の介護支援への移行を進めた。一方で、利用者確保の難しさ、支援ニーズの高度化、設備整備など、今後の経営に対し課題も明確となった。

障害福祉サービス事業における事業報酬は前年度比で8,346千円の減少となった。また、当期資金収支差額は1,064千円のマイナスとなり、資金面でも厳しい状況がみられた。その要因として、前年度の就職率低下に伴う報酬単価の減額と、年度内の利用者就職及び退所者数の増加による報酬減算が重なり、厳しい結果となった。今後は、就労支援の質向上と利用者定着に向け、安定した事業運営を目指す必要がある。

【事業報告】

■就労支援事業

こころんファーム(農場・養鶏場)は、新たに廃鶏を利用したペットフード(チキンジャーキー)を開発し販売を開始。また、新米の受注増に伴い自然栽培米の作付面積を拡大し供給も開始した。その実績が3,070万円の売上増と伸ばすことができた。さらに、GAP認証取得等促進事業補助金を活用して、青果物と畜産の安全性・信頼性向上に向けた基盤整備を継続し、販路拡大に取り組んだ。しかし、鶏の飼育管理の不安定さや農機械の老朽化、雑草被害(不作)など経営課題も多く、継続した対策が求められている。

直売・カフェこころやは、売上62,296千円(達成率103.8%)、工賃34,857円と改善した。季節毎のイベントや季節感を意識した売場作りなど集客方法を工夫し、新規仕入先商品の開拓も進め売上増に大きく寄与したと思われる。しかし、人材不足によるカフェ週5日営業は未だ再開できず、年々高騰している原材料や資材からの価格変動が続く中で、利用者工賃確保のためにも店頭価格の見直しは必要と考える。

販売促進事業として「ふくしまプライド。」補助金を活用し、県外イベント(ノウフクフェスタ等)への出店やこころや収穫祭、ミニイベントを開催。SNSや地域情報誌等で認知度を高め、売上増につなげた。

こころん工房は、利用者2名がA型事業所へ就職した。売上は5,531千円と目標達成し前年度よりも増加した。人員が減った中で、生産体制や品質管理の見直しを行い、HACCPに基づく衛生管理も継続して実施。しかし、材料費高騰や利用者就職に伴う作り手不足など、今後の課題も多く残った。

なごみの家は、内職受注の変動が大きく売上は減少したが作業内容を工夫し、利用者の作業が切れないよう作業確保に努めた。但し、利用者の高齢化と体調悪化による退所が続き利用者数が減少した。利用者数の減少は施設全体の問題である。就業支援センター(移行支援)が中心となり、企業見学・実習等の機会を広げ、就職サポートの充実・作業訓練内容の選択など、利用者確保の取り組みに力を入れたい。

■生活支援

グループホームは、地域連携会議を開催し、地域・家族・関係機関との協働体制を維持。入居率82%、単身生活希望者の移行支援が成果を上げ、利用者の自立支援を進めることができた。今後も関係機関、相談支援との情報を共有し、社会復帰へのサポート行う。

■支援事業

地域活動支援センターは、会田病院理学療法士の指導のもと、体力維持・増進プログラムを継続し、利用者の健康状態の改善を図った。また、余暇活動や内職による作業訓練から利用者一人一人の目標に沿った支援プランを提供し、生活リズムを整え安定した通所が出来るようサポートを目指す。

相談支援事業は、障害を持つ方が自立した社会生活を過ごせるように適切なサービス利用の計画を提供。今年度は相談支援専門員2名を配置し、困難ケース等にも対応できるよう支援体制を整える。

事業所名	地域活動支援センター（生活支援センターこころん）		
利用定員	20名	利用登録者数	19名
事業の目的	障害を持つ人が地域で自立した生活をするために必要な生活技術の支援を行なう。		
令和7年度の目標	通所支援、日常生活支援、余暇活動の場を安定的に提供する。 利用者数が減少しており、新規利用者を受け入れるなどして利用者の増員を目指す。		
令和7年度の実績	①利用者：2名が就職した。また他施設へ移られた方が3名いた。 直Bを含め支援学校実習生（10名）や見学体験希望者（5名）の受入れを行なったが新規利用につながらなかった。 ②生産活動：花の仕入れ先において秋彼岸花が暑さのため咲かず、仕入れできなかった。その後、仕入れ先において花の生産量を縮小したため以降の仕入れができなくなり、年末で取引を終了した。 ③地域交流：こころや感謝祭においてキッズコーナーを担当した。 例年開催していたアート展を休止した。泉崎村民文化祭に絵画教室の絵を出展した。 ④地域の社会資源との連携：自立支援協議会精神障がい者部会への参加、精神保健福祉士会地域生活支援プロジェクトへの参加。		
事業内容	1. 通所の支援 目的に応じた利用日数を設定し、安定して通所できるよう支援した。 2. 日常生活支援 生活リズムを整える、服薬管理の指導などの支援をおこなった。 3. 運動療法 毎日ウェルネス体操を実施し、体力低下防止に努めた。会田病院のリハビリ運動講座を依頼し、定期的の実施した。 4. 余暇活動 貸し切りバスを利用し、施設旅行としてアクアマリンふくしま・ららミュウに出かけた。 5. 作業の定着 様々な種類の作業を準備し、安定的に作業へ参加できるよう支援した。 6. 就労支援 働く場の提供や企業見学・面接のサポートを行なった。 7. 作業内容 ・下請け作業 (株)栄伸 ランドセルの部品作成 (株)ウェーブクレスト 荷札の輪ゴム通し (株)村上 紙袋作成 ・販売 ランドセルの廃材を利用したチャームを制作し販売した。 お盆に切り花を販売した。 8. 地域交流 9. 地域の社会資源との連携		
課題に対する評価	1. 環境整備：作業室の机を増やして作業スペースを増やし、食堂を休憩スペースとして確保した。 2. 依然就労目的の人と居場所目的の人が混在している。個別の声掛けを行なうことでそれぞれの目標を確認しながら進めている。 3. 地域の中での認知度が低いのか、新規利用者及び利用希望者はいなかった。		

事業所名	指定特定相談支援事業（生活支援センター こころん）		
利用定員(人)	なし	利用登録者数	51 名
事業の目的	障がい者等からの必要な相談に応じ適切な支援を行う。（基本相談支援） 障害福祉サービスを利用する時または調整を行いたい時にサービス等利用計画を作成し、計画通りにサービスが提供されているか一定の期間ごとまたは必要とする時にモニタリングを実施する等の支援を行う。（計画相談支援） それらを通し、本人の円滑な福祉サービスの利用や地域生活を促すとともに地域ニーズの掘り起こしを行う。		
7 年度の目標	能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように支え、障がい者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する。 ○サービス等利用計画の作成・モニタリングの実施 ○適時、状況に合わせた訪問・同行支援 ○関係機関との連絡調整、ケース会議の開催・参加 ○研修会・相談支援専門員定例会・ワーキンググループへの参加 ○事業報酬加算対象となる人員配置を目指し、0.2 の人員配置増加を目指す。 ○担当件数の微増 ○細やかな加算制度の活用		
7 年度の実績	実施件数 ☐新規 1 件 ☐更新 33 件 ☐モニタリング 98 件 ☐集中支援 5 件 ☐契約終了 3 件 ☐医療・保育教育機関等 1 件 ☐担当者会議 1 件 関係機関との連携及び地域課題への取組として以下に参加した。 （１）基幹相談支援センター主催の相談支援定例会（全 12 回） （２）各種研修会への参加（引きこもり支援、若年性認知症、野中式事例検討等）		
事業内容	特定相談支援として、障がい者自身が望む自立した社会生活を支えることを目的とし、抱える課題の解決を行い、本人に合った適切なサービス利用ができるよう計画相談を作成し、適切にサービス提供されているか、他に課題はないか定期的なモニタリングを行った。必要に応じて医療関係者、各福祉事業所、行政や専門機関と連携し会議実施や参加、連絡調整等を行った。また各種研修会に参加しスキル向上を目指した。		
課題に対する評価	他事業所では人員増加や、主任相談支援専門員の配置を行うなど事業収入増や支援内容の質向上を狙った人員配置が整備されてきており、年々格差が開いている状況のため、令和 8 年度からは相談支援専門員 2 名を配置し改善に努める予定である。 難しいケースや緊急的な対応が必要な方など地域生活を支える困難さに直面したケース等に対し、より多くの関係機関とのネットワーク構築を図り、細やかな支援体制を進めます。		

事業所名	共同生活住居こころん あけぼの荘、こころんハウス			
利用定員（人）	あけぼの荘	16 人（14 人）	男性 10 人（9 人）	女性 6 人（5 人）
	こころんハウス	12 人（9 人）	男性 6 人（5 人）	女性 6 人（4 人）
事業の目的	【共同生活援助】 利用者が地域で自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において、入浴、排泄及び食事等の支援、相談その他の日常生活上の支援を行う。また、必要に応じて移行支援（単身生活への移行、介護保険サービス事業所への移行）を行う。			
令和 7 年度の目標	‘共同生活の場’ということを踏まえ、個々人がお互いを理解しあいながらよりよい生活を営めるように日常生活上の支援をする。 ① 居室の空室を0にする。 ② 単身生活希望者への移行支援(サテライト型住居を含む)。 ③ 地域連携推進会議の開催。			
令和 7 年度の実績		令和 6 年度	令和 7 年度	
	見学者	6 名	6 名	
	体験者	13 名	名	
	本入居者	3 名	名	
	退去者（入院・死亡含む）	2 名	2 名	
	入居率	86%/100%（24 人/28 人）	82%/100%（23 人/28 人）	
事業内容	【生活支援】 ・入居者の生活相談・支援全般 【防災訓練】 ・あけぼの荘 R7. 7. 12 R8. 2. 10 実施 ・こころんはうす R7. 7. 12 R7. 12. 23 実施 【余暇活動】 ・R7. 5. 31 グループホーム合同 釣って食べよう釣り体験（林養魚場・クスリのアオキ） ・R7. 7. 12 " 暑気払い 焼肉きんぐ 【地域連携推進会議】 ・R8. 2. 12 こころんはうす→あけぼの荘にて 13 名参加			
課題に対する評価	① 引き続き病院や他事業所、相談支援とつながり情報交換していく。 他事業所の利用者の入居が目的なケースが多く、こころんでの日中活動につながりにくい傾向にあるため、こころんへの利用につながるよう支援していく。 ② 本人の一人暮らしへの思いが熱くなった機を逃さず、安心して移行できるよう丁寧に支援し自立させることができた。 ③ 地域連携推進委員会を市町村・他事業所・地域・利用者家族・利用者呼びかけ、協力していただき委員会を開催できた。			

事業所名	こころんヘルパーステーション			
利用定員(人)	20 人	登録者	家事援助	8 人
			身体介護	2 人
			通院介助	16 人
			移動支援	0 人
令和 7 年度の事業の内容	＊サービスの種類 （障がい者総合支援法に基づく支援） ・身体介護 身体的な介助を必要とする方の入浴や生活の援助 ・家事援助 掃除・食事作り等 日常生活をする上で必要なサービスの提供 ・通院介護 通院の同行 ・通所施設への送迎 ・移動支援 （今年度依頼なし） ＊関係機関との連絡調整・会議への参加 ＊支援計画の作成			
令和 7 年度の事業の評価	・受診前の連絡、通院介助、受診同行することにより、体調の変化や生活状況を医療機関や行政機関に伝え、連携をとることが出来た。 ・グループホーム入居者の通院同行を行い、医療機関からの指示などを生活の支援に反映して体調管理が出来た。 ・精神障害に対応できる事業所が少なく、困難事例の依頼が多い。 ・グループラインにて連絡事項を周知し合い、リアルタイムで情報共有している。			
課題	・家事援助依頼の問い合わせが増えているが、一人に対する訪問回数が多くなかなかお受けできない状況。			

事業所名	なごみの家			
利用定員	B 型：10 名 センター5 名	利用登録者数	10 名（B 型：8 名、センター：2 名）	
事業の目的	・ 個々の能力と個性に応じた支援を行い、生活経験の拡大や社会参加可能の向上を図る。 ・ 生産活動を通じて生きがいを持てるように支援する。 ・ 支えあう仲間作り・気軽に安心して利用できる居場所をめざす。			
令和 7 年度の目標	売上	2,200,000 円 (前年度：2,500,000 円)	平均工賃	30,000 円 (前年度：30,000 円)
令和 7 年度の実績	売上	1,743 ,667 円 (前年度：2,140,885 円)	平均工賃	18,358 円 (前年度：21,523 円)
事業内容	《 事業内容 》 ① 内職作業 ・ 付箋の頭出し、本棚ストッパー組み立て（エコー電気（株）） ・ 電子コード差し込み（株仲野電機製作所） ・ 紙袋作り（株村上） ② 内部ランチ作り ③ 余暇活動として定例イベント ④ 支援学校 3 年生の直 B アセスメント 《 事業内容・計画に関する評価 》 1. 内職作業に関しましては、エコー電気様からの受注の減少や止まる時期が多々あり、それに伴い、売上、利益共に前年度より減少した。減少期間中は、こころやの割りばし袋作りなどをして利用者の作業内容を賄った。 2. 新たに職員を補充したが途中、部署移動などがあり、人員固定をすることができず、利用者の障害特性に合わせた支援の理解と実働を指導することがむずかしかった。 3. 建物の老朽化や家賃の高騰、移行支援との多機能型として新規事業所を開設するにあたっての新規物件を数件視察に周ったが、立地や規模、家賃など条件に見合った物件を見出すことはできなかった。			
課題	○内職受注量の変動を想定し、売上、利用者の作業量、適正に合わせた作業内容の確保 ○一般就労や体調による長期入院の為、来年度より利用者の減少が見込まれる。事業所見学者や支援学校実習生の増加など誘致を積極的に行い、利用者増員に努める。 ○職員の固定と適切な支援の教育を充実し、利用者の方への心身共に安定した就労環境、居場所を提供する。 ○なごみの家の新事業内容、運営方針を明確にし、新たな物件を考慮する。			

令和 7 年度事業報告書

事業所名	こころんファーム																											
利用定員(人)	10 名	利用登録者数	7 名																									
事業の目的	【就労支援 B】 農作業を通して、規則正しい生活習慣（睡眠、食事）を改善・維持する。また、ケアプランをもとに本人の適性にあった作業提供をし、強みを生かし、仕事に対して自信と責任を持たせる支援をする。 【就労移行支援】 上記に加え、希望とする職業に就くための作業環境を提供し、就労訓練を具体的に行っていく。また、仕事面だけでなく、障害の理解や体調不良時の対処法、人間関係（挨拶・協調性・言葉遣い）について訓練し、精神的、経済的自立の意識を高める支援を行う。																											
7 年度の目標	売上目標	4,800,000 円 (前年度：7,500,000 円)	目標工賃	45,000 円 (前年度：45,000 円)																								
7 年度の実績	売上実績	7,878,476 円 (前年度：8,933,929 円)	平均工賃	35,878 円 (前年度：45,832 円)																								
事業内容	○無農薬・無化学肥料栽培（8 品目） ・農地面積 畑 24,757 m² 水田 11,800 m² 計 36,557 m² ・使用堆肥 木目澤ファーム 牛糞堆肥（泉崎） ここたまファーム 鶏糞堆肥（白河市） ・販路 こころや、リオンドール、ヨークベニマル、JA 夢みなみ、宮田運輸（米）、神戸パイオニア（菊芋）、個人発送等 ○施設外就労提携先 鈴木農園（大豆除草） ○収入内訳 <table><tr><td>1. こころや</td><td>1,204,839 円</td><td>(昨年度 492,078 円)</td></tr><tr><td>2. リオンドール</td><td>212,265 円</td><td>(昨年度 240,419 円)</td></tr><tr><td>3. ヨークベニマル</td><td>2,580,136 円</td><td>(昨年度 2,606,677 円)</td></tr><tr><td>4. 施設外就労</td><td>150,000 円</td><td>(昨年度 826,760 円)</td></tr><tr><td>5. 発送</td><td>1,756,021 円</td><td>(昨年度 2,823,37 円)</td></tr><tr><td>6. JA 夢みなみ</td><td>923,833 円</td><td>(昨年度 728,520 円)</td></tr><tr><td>7. 外販・イベント</td><td>272,070 円</td><td>(昨年度 364,286 円)</td></tr><tr><td>8. その他（助成金含む）</td><td>779,312 円</td><td></td></tr></table>				1. こころや	1,204,839 円	(昨年度 492,078 円)	2. リオンドール	212,265 円	(昨年度 240,419 円)	3. ヨークベニマル	2,580,136 円	(昨年度 2,606,677 円)	4. 施設外就労	150,000 円	(昨年度 826,760 円)	5. 発送	1,756,021 円	(昨年度 2,823,37 円)	6. JA 夢みなみ	923,833 円	(昨年度 728,520 円)	7. 外販・イベント	272,070 円	(昨年度 364,286 円)	8. その他（助成金含む）	779,312 円	
1. こころや	1,204,839 円	(昨年度 492,078 円)																										
2. リオンドール	212,265 円	(昨年度 240,419 円)																										
3. ヨークベニマル	2,580,136 円	(昨年度 2,606,677 円)																										
4. 施設外就労	150,000 円	(昨年度 826,760 円)																										
5. 発送	1,756,021 円	(昨年度 2,823,37 円)																										
6. JA 夢みなみ	923,833 円	(昨年度 728,520 円)																										
7. 外販・イベント	272,070 円	(昨年度 364,286 円)																										
8. その他（助成金含む）	779,312 円																											

評 価	○全体評価 主品目 5 品（水稻、スナップエンドウ、オクラ、玉ねぎ、菊芋）と副品目 3 品の計 8 品目で作付け計画を立てた。端境期は大豆の草取りなどの施設外就労を組み合わせ、年間を通した農作業の提供が定着した一年となった。 販路は、前年同様ヨークベニマルを中心に、JA 夢みなみ、リオンドール、こころやに振り分け出荷した。特に、ベニマルについては、今年も売り上げの 3 分の 1 を占めるなど販路の柱となっている。その他、7 年度はこころやランチへの自然米供給を実現できた飛躍の年となった。今後は、こころんのお弁当での自然米利用を目指していきたい。 反省点としては、以前猛威を振るっているアレチウリの繁茂が、今年も菊芋減収につながってしまったため、次年度からは、畑を変えるなどして安定した供給を実現したい。 ○総合的評価点 ① サポーターやここたまファームと大いに地域・部署間連携し農繁期を乗り越えたこと ② 利用者の力を引き出し技術の蓄積が進んだこと（特にパソコン作業） ③ 多くの見学者対応に力を入れ、SNS やイベントを活用しこころんファームの PR に注力したこと 以上の 3 点が、売り上げ UP に直結したと考えられる。 ○令和 7 年度達成事項 ・こころやへの自然栽培米供給 ・職員・利用者（推薦者のみ）トラクター運転免許完備 ・設備導入（ハンマーナイフモア・水田除草機）
課 題	未達成課題 ・機械の老朽化に伴う修理が非常に多くなっている。（トラクターや田植え機のオイル漏れ）購入となると 100 万単位なので、未だ、直しながら使っているが、古い機械のため、いずれは購入も検討しなければならない。

事業所名	こころんファーム養鶏場　ここたま																															
利用定員	5　名		利用登録者数	3　名																												
事業の目的	・ 自然の恵みを生かした循環型農業を取り入れ、アニマルウェルフェアに対応した飼育環境のもと安全安心な国産畜産物を生産する ・ 働き甲斐のある就労、生き甲斐のある生活を通して利用者の自己実現を図る																															
令和7年度の目標	売上	11,300,000 円 (前年度：10,500,000 円)	平均工賃	18,000 円 (前年度：13,888 円)																												
令和7年度の実績	売上	10,785,112 円 (前年度：11,546,596 円)	平均工賃	18,124 円 (前年度：18,133 円)																												
事業内容	飼育に関すること 5 月　401 羽　導入　　　　　8 月　275 羽　廃鶏　　　　　11 月　301 羽　導入 <table><tr><td></td><td>令和7年度</td><td>前年度</td></tr><tr><td>年間生産実績</td><td>13.7 t</td><td>15.5 t</td></tr></table>					令和7年度	前年度	年間生産実績	13.7 t	15.5 t																						
		令和7年度	前年度																													
	年間生産実績	13.7 t	15.5 t																													
	販売に関すること 1 月　ノウフクフェスタ上野に出店（ふくしまプライド助成金を活用） <table><tr><td>主な売上先</td><td>売上額</td><td>前年度</td><td>前年比</td></tr><tr><td>ここたま店舗</td><td>2,200,450 円</td><td>2,351,921 円</td><td>△151,471 円</td></tr><tr><td>移動販売</td><td>2,441,517 円</td><td>2,531,573 円</td><td>△90,056 円</td></tr><tr><td>こころや</td><td>2,437,587 円</td><td>2,513,861 円</td><td>△76,274 円</td></tr><tr><td>り菜あん</td><td>683,536 円</td><td>765,885 円</td><td>△82,349 円</td></tr><tr><td>まるごと西郷館</td><td>817,998 円</td><td>920,456 円</td><td>△102,458 円</td></tr><tr><td>道の駅ふくしま</td><td>469,222 円</td><td>404,789 円</td><td>64,433 円</td></tr></table>				主な売上先	売上額	前年度	前年比	ここたま店舗	2,200,450 円	2,351,921 円	△151,471 円	移動販売	2,441,517 円	2,531,573 円	△90,056 円	こころや	2,437,587 円	2,513,861 円	△76,274 円	り菜あん	683,536 円	765,885 円	△82,349 円	まるごと西郷館	817,998 円	920,456 円	△102,458 円	道の駅ふくしま	469,222 円	404,789 円	64,433 円
	主な売上先	売上額	前年度	前年比																												
	ここたま店舗	2,200,450 円	2,351,921 円	△151,471 円																												
	移動販売	2,441,517 円	2,531,573 円	△90,056 円																												
	こころや	2,437,587 円	2,513,861 円	△76,274 円																												
	り菜あん	683,536 円	765,885 円	△82,349 円																												
	まるごと西郷館	817,998 円	920,456 円	△102,458 円																												
道の駅ふくしま	469,222 円	404,789 円	64,433 円																													
施設外就労（農事組合法人ひかり）に関すること 3 月 31 日現在　登録メンバー4 名（他部署との兼任利用も含む） <table><tr><td></td><td>R7 年度</td><td>前年度</td><td>前年比</td></tr><tr><td>売　上</td><td>822,123 円</td><td>795,295 円</td><td>26828 円</td></tr><tr><td>延べ日数</td><td>116 日</td><td>149 日</td><td>△33 日</td></tr><tr><td>延べ時間</td><td>767 時間</td><td>782 時間</td><td>△15 時間</td></tr><tr><td>メンバー数</td><td>6 人</td><td>5 人</td><td>△1 人</td></tr></table>					R7 年度	前年度	前年比	売　上	822,123 円	795,295 円	26828 円	延べ日数	116 日	149 日	△33 日	延べ時間	767 時間	782 時間	△15 時間	メンバー数	6 人	5 人	△1 人									
	R7 年度	前年度	前年比																													
売　上	822,123 円	795,295 円	26828 円																													
延べ日数	116 日	149 日	△33 日																													
延べ時間	767 時間	782 時間	△15 時間																													
メンバー数	6 人	5 人	△1 人																													
週3 日の従事が8 月から週2 日に減少したが、最低賃金の引上げと欠勤する利用者が減ったことで売上は増加した。																																
その他 ・ 廃鶏を利用したペットフード（チキンジャーキー）の販売を開始。 ・ トラクター横転事故や外販先での接触事故などが発生。																																

課題に対する 評価	飼育に関すること 月平均の死亡率が2.4%と高く（通常、死亡率の高まる暑熱期でも1%前後といわれる）飼養管理を見直す必要がある。 販売に関すること 4、5月は鶏の入れ替え期で、12月はA室の産卵率の著しい低下（原因不明）で在庫が不足し販売できる卵が少なく売上を落としてしまった。やはり飼養管理の不安定は大きな課題である。目標額マイナス52万。 その他 事故による大きな怪我はなく済んだが、危機管理意識の強化が必要である。 利用者支援に関すること 利用者の勤怠の改善が見られたり、1名だが利用者が増えたりと着実な進展を見せている。スタッフが1名だけの勤務時に適切なフォローができず利用者を無防備な状況に置いてしまうことがあった。
--------------	---

事業所名	こころん工房			
受入可能人数	10 名	利用登録者数	7 名（B 型：5 名・移行：2 名）	
事業の目的	・就労を通して自己実現を図り、生きる喜びや働く楽しさを味わう。 ・生き甲斐のある生活、働きがいのある就労を実現させる。			
令和 7 年度の目標	売上	5, 500, 000 円 (前年度：5, 500, 000 円)	平均工賃	25, 000 円 (前年度：28, 000 円)
令和 7 年度の実績	売上	5, 531, 537 円 (前年度：5, 354, 644 円)	平均工賃	27, 636 円 (前年度：26, 952 円)
事業内容	○利用者支援 ・2 名の利用者が A 型事業所に就職。・1 名が就労移行から就労継続 B 型に変更。 ・4 名の就労アセスメントを受け入れたが、利用には至らなかった。			
	○生産体制 ・一人一人合わせた作業を準備し、作業の幅を徐々に広げることができた。 ・既存商品の製造工程及び手順を再確認し、品質向上を図った。 ・スタッフが新体制になったため、作業内容や各種イベント等生産体制の見直しを図った。 ・原材料・資材等の高騰により、全販売商品の原価計算の見直しをする準備を進めた。			
	○衛生管理 ・4 月、10 月に腸内細菌検査を行った。 ・毎日清掃の時間を設け、器具や備品等の衛生管理を徹底した。 ・春～夏にかけて作業場内にアリが大量発生。市販の防虫剤などで対策し、年々減ってはいるものの防除には至っていない。			
	○主な売上内訳			
	取引先	今年度年間売上	昨年度年間売上	昨年比
	こころや	2, 122, 005 円	1, 705, 671 円	416, 334 円
	り菜あん	282, 425 円	250, 241 円	32, 184 円
	まるごと西郷館	512, 198 円	454, 657 円	57, 541 円
	喫茶小路	105, 709 円	170, 799 円	- 65, 090 円
	森林ノ牧場	378, 001 円	408, 898 円	-30, 897 円
	わーくる矢吹	124, 623 円	91, 879 円	32, 744 円
	ひじりん館	169, 466 円		169, 466 円
	注文、社内販売等	1, 837, 110 円	2, 272, 499 円	-435389 円
	課題に退 する評価			
	・イベント製品を主として製造していた利用者が就職し、現在人員不足のため、一部の商品の製造をスタッフに移行した。 ・老朽化した機器を入れ替えた。それにより作業工程を見直し、機器に対する毎日の必要なメンテナンスを取り入れるなど行った。 ・支援の研修は参加したが、製造の研修の参加は機会がなかった。 ・価格改定は行ったが、材料費・資材等は高騰し続いている。			

事業所名	直売・カフェ　ころや			
受入可能人数	10 名程度	利用登録者数	8 名(継続 B 型 8 名、移行 0 名)	
事業の目的	1. 社会参加型の就労訓練所の機能を活かし働くことを通じて社会性の向上や障がいの回復を目指していく。 2. 安心安全の『食』の提供を通じて、お客様や地域の方々信頼を築く事で利用者がお客様や生産者など地域の方々と触合い社会性を育める場所を継続発展させる事で関わりあう人々の生活の質の向上に貢献する。			
令和 7 年度の目標	売上	60,000,000 円 (前年度：64,000,000 円)	平均工賃	30,000 円 (前年度：30,000 円)
令和 7 年度の実績	売上	62,296,847 円 (前年度：60,718,196 円)	平均工賃	34,857 円 (前年度：32,420 円)
事業内容と評価	《 事業目標 》 年間営業売上は 62, 296 千円、事業目標に対して達成率 103. 8%、前年売上比 102. 5%と、目標・前年比ともに達成した。月 1 回以上のイベント（いちご販売終了セール、限定ランチ等のミニイベント含む）を実施し、集客に努めた。向山製作所の取引開始や冬期のおでん販売など新たな需要を創造することで売上増につながった。しかし、本年度の目標であったカフェの週 5 日営業を再開できなかったため、微増にとどまった。 《事業内容に関する評価》 1. 集客・販売促進（※ふくしまプライド助成金を活用） ① 収穫感謝祭※と年 10 回を超えるミニイベントの開催。 ② 新規仕入れ先の開拓による商品の充実。 ③ SNS や地域情報誌※で情報発信し、集客につなげた。 ④ ビジネス LINE や電子マネーの導入については未実施。継続検討する。 ⑤ 既存の移動販売（月・木・金）の売上が大幅に減少している。令和 8 年 1 月より月 1 回の中島村内移動販売を開始した。 2. カフェ部門の通常営業と売上の回復 ① 人材が確保できず、週 5 日営業を再開できなかった。 ② 原材料や資材の高騰が続くため、価格の見直しは R 8 年度に持ち越しとした。 ③ 生産者の野菜や果物の紹介を継続し、直売の売上につなげた。 ④ 年間売上は 7,541 千円で前年 7, 611 千円）比 99%となった。（利用客数は 101%） 3. 生産者および仕入れ取引先の新規開拓 ① 生産者紹介等により 14 人の生産者が新規登録した。 ② 年間登録料は廃止。（個別のお知らせのみ） ③ お試し出品制度の導入。4 人が利用、うち 1 人が本登録した。 4. 新規利用者の獲得。 ① 1 年間で就職により 1 名、他施設移籍により 1 名が卒業。積極的な利用者獲得のための活動ができず、利用者を増やせていない。（活動センターから 1 名が体験中）			
課題に対する評価	1. 店舗運営の基礎のオペレーションを確立する。 2. 店舗の老朽化への対応。（5 月：屋外保冷库買換え、12 月：洗濯機買換え、2 月：ガス台のパイロットバーナー交換） 3. 人材不足により積極的な経営ができない。 4. 高齢化と担い手不足による、生産者の減少対策。⇒生産者 2 名が世代交代して取引継続。 5. 職員のマーケティング能力の向上と効率的な運営の仕組み作り。			

事業所名	こころん就業支援センター（就労移行支援）		
利用定員	10 名	利用登録者数	6 名
事業の目的	障害者総合支援法の理念に基づき、地域で生活している障がい者に対し、一般就労に向けて必要な訓練、指導を実施する。就職後は半年間にわたり、職場定着支援を実施するとともに、希望する支援機関への移行を促進する。		
令和 7 年度の 目標と実績	① 就職者 3 名（移行支援：2 名、継続支援：1 名）⇒5 名（移行：3 名、継続 2 名） 1) 就職に向けた課題を整理し有効な作業訓練を実施する為、移行支援担当者＋現場担当でチーム支援を実施。実習への同行等で情報共有を深める。 2) コミュニケーションスキルを学ぶ場として、レクリエーション参加の機会を提供する。 3) 中小企業家同友会の例会に出席し、地域企業との連携を強化する。 ⇒講演会開催と資料展示 1 回、販売会への出店 1 回、雇用実績 1 名。 ② ひとりひとりに合った職業や働き方を見極める機会の提供。 1) しらかわ就労チャレンジ応援団等を利用し、企業見学や実習の機会を提供する。 ⇒10 社延べ 22 名が参加 2) 施設外就労（ひかり）を通して、適性に合った仕事内容や働き方を見極める。 ⇒就職者 4 名中 3 名は施設外就労参加者） ③ 年度内に新規利用者数を 5 名以上に増やす。⇒未達成 1) 支援学校生や就業・生活支援センター紹介者の実習を積極的に受け入れる。 ⇒3校延べ7名の支援学校実習とその他の紹介 5 名の体験を受入れた。4 名が利用登録。（うち 2 名は就労継続 B 型で登録） 2) ホームページ上に就労支援の紹介と問い合わせ窓口を掲載する。 ⇒施設紹介サイト「リタリコ仕事ナビ」に無料登録した。 3) 水郡線沿線および表郷地区への送迎を関係機関に周知する。⇒未実施 ④ 支援学校 3 年生の直 B アセスメントを担当する。⇒3 校 8 名を担当。 ⑤ 就労選択支援事業※開設に向けて情報収集、準備をする。⇒検討中 ⑥ 白河市内への移転・独立のための情報収集、準備をする。⇒検討中		
事業内容	① 各施設での就労訓練の提供（こころや、ファーム、センター、工房） ② 就業セミナーの開催（次頁参照） ③ 企業内訓練の実施（ひかり） ④ 職場開拓、就職活動の支援 ⑤ 特別支援学校の実習受け入れ（産業現場実習、直 B アセスメント） ⑥ 就職後 6 か月の職場定着支援。（6 か月以降は定着支援事業に移行）		
課題に対する 評価	① 人員不足により、利用者確保のための活動ができない。⇒仕事ナビの紹介記事を充実させた上で、こころんホームページ上にも同様の情報を掲載する予定。 ② 移行支援事業の独立にむけての専任者の増員。⇒未着手。 ③ 就労選択支援事業を実施するためには、受け入れる環境（広さや訓練プログラム）の改善が必要。⇒福島県としての方針が明確でないため、R8 年度のしらかわ自立支援協議会にて、県南独自の実施形式を協議していく予定。		

※1 就労選択支援事業：障害のある人が希望や能力・適性に合った仕事探しや支援機関選びができるよう支援するサービス。令和 6 年の報酬改定で新設され、令和 7 年 10 月より実施予定。今後、就労継続支援を利用する際や移行支援の期間延長時は、就労選択支援サービスでアセスメントを受けることが条件になる。

事業所名	こころん就業支援センター（就労定着支援）		
利用定員	10 名	利用登録者数	7 名
事業の目的	障害者総合支援法の理念に基づき、地域の一般企業等で就労している障がい者に対し、必要な相談支援や雇用主への助言等を実施することにより、職場定着と自立した社会生活の助長を図ることを目的とする。		
令和 7 年度の 目標と実績	① 就職後 3 年間の職場定着率:7 割を維持。⇒6.5 割 定着支援サービス終了後 3 年間の職場定着率:7 割以上。⇒5.6 割 1) 職場訪問、施設利用、家庭訪問、メール、電話など、個々に合わせた相談方法に対応し、必要な支援を提供する。 2) 利用者の勤務先のニーズを把握し、個々に合わせた支援を提供する。 3) 他機関とのケース会議を定期的に開催し、サービス終了後の支援体制を整える。 ② 利用者の余暇活動の充実をはかる。⇒未実施 1) 在職者交流会エキサイトを定期開催し、サービス終了後のフォローアップに活用する。 2) コロナ等の感染に留意しつつ、参加しやすいプログラムを開催する。 ③ 登録者:10 名⇒登録者 4 名 1) 利用者に対し、就職活動中から定着支援のサービス内容を周知し、就職直後から利用開始時(就職後 6 か月)と同じ支援を提供する。 2) ジョブコーチ事業と定着支援サービスの有効性について、企業に対して説明する。 ④ 定着支援終了後も企業との関係を継続し、長期継続勤務や障がい者雇用の増員を働きかける。⇒ ⑤就労支援員として活動できる人材を育成する。		
事業内容	① 月 1 回以上の本人との面談。(こころん・勤務先・家庭訪問) ② 職場訪問または電話連絡により、勤務先担当者との状況確認。 ③ 在職者交流会の実施⇒令和 7 年度未実施 ④ 就労相談日の設定。		
課題に対する 評価	① 定着支援サービスを利用する利用者は順調に増えているが、支援に携われる人員が見込めない。⇒支援期間満了や退職により利用者は減っている。定着支援が使えない A 型への就職が多かったため、新規登録者数が伸びなかった。 ② 兼務している事業の業務に追われ、エキサイトの交流会が開催できていない。 ⇒こころんの行事(感謝祭やこころやミニイベントの案内を郵送し、会場で会えた時に近況を確認した。 ③ 企業及び利用者との随時連絡し、情報共有するために専用の携帯電話を所持する。 (現在は職員の私用携帯電話に頼っている)⇒未実施 ④ 毎月第 2 土曜日を就労相談日に設定しているが、周知が足りず、相談者がいない。⇒R7 年度実績なし ⑤ 関係機関へは周知しているものの、他施設からの就職者から定着支援サービス利用依頼がない。⇒R 7 年度実績なし。		

就業セミナー 令和 7 年度実績

就業セミナー		()は移行登録者
4 月 30 日(火)	就労のためのチェックリスト	参加：12 (2)
5 月 28 日(火)	就労ピアカウンセリング「対話の練習 をしてみよう」	参加：10 (2)
6 月 24 日(月)	外部講師「防犯」 ころん合同企画	参加：25 (3)
7 月 23 日(火)	就労ピアカウンセリング「ワークライフバランス」	参加： 9 (3)
9 月 17 日(火)	ナビゲーションブックを作ろう	参加： 6 (3)
10 月 22 日(火)	企業見学「工場の仕事を知ろう」	参加： 8 (3)
11 月 26 日(火)	就職に向けての勉強会	参加： 9 (3)
1 月 28 日(火)	未来予想図 2025（長期目標をたてる）	参加： 8 (3)
2 月 25 日(火)	働くために必要なこと「自分の強みを知ろう」	参加： 9 (2)
3 月 25 日(火)	働くために必要なこと「チェックリストの活用」	参加： 8 (2)
リフレッシュプログラム 活動センターと共催		()は移行登録者
4 月 10 日(水)	お花見「公園散策をしよう」	参加：18(1)
7 月 15 日(月)	スウィーツフェア「交流を深めましょう」	参加：15(2)
中小企業家同友会主催企画		
7 月 19 日	ランチ例会にてころんの取り組みを発表	会員 19 名出席
9 月 21 日（土）	つながるマルシェに出店	来場 327 名
9 月 21 日（土）	オープン例会にて施設商品や資料の展示	会員等 31 名出席

就労定着支援活動 令和 7 年度実績

ころん在職者交流会「エキサイト」		()は定着登録者
6 月 27 日(金) 28 日(土)	「夏のスイーツフェア」 会場：直売・カフェころんや	在職者：3(0)
9 月 21 日(土)	「つながるマルシェ」 会場：メガステージ白河 イベントスペース	在職者：3 (2)
10 月 13 日(日)	「ころんや感謝祭」 会場：直売・カフェころんや	在職者：8(4)
2 月 13 日(金) 14 日(土)	いちごまつり 会場：直売・カフェころんや	在職者：1(0)
3 月 13 日(金) 14 日(土)	いちごまつり 2 会場：直売・カフェころんや	在職者：2(0)